

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1490500558
法人名	医療法人社団平平會
事業所名	グループホームふあいと永田
訪問調査日	令和3年3月23日
評価確定日	令和3年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 2 年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490500558	事業の開始年月日	令和2年6月1日
		指定年月日	令和2年6月1日
法人名	医療法人社団平平會		
事業所名	グループホームふあいと永田		
所在地	( 232-0075 )		
	横浜市南区永田みなみ台1-15		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	令和3年5月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ご利用者が喜びと安心できる環境の提供、ひとりひとりの尊厳、歴史を守り、明るく、優しく、心をこめて生活のお手伝いをし、自分や自分の家族にとってしてもらいたいと思う事を、ご利用者様にさしあげるをモットーにしております。</p> <p>・職員間では協調性、協力性、チームワークを大事にし、ご利用者様へも、職員どうしも、目配り、気配り、思いやりの精神で接する事を大切にしております。</p>
---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和3年3月23日	評価機関 評価決定日	令和3年3月23日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、医療法人社団平平會の経営です。同法人は、株式会社白寿会と共に介護と医療の連携を目指したグループ法人の「(株)白寿会・医療法人社団平平會グループ」です。法人では、介護と医療が連携することにより、認知症や重度化が進行しても、最期まで住み慣れた地域の中で継続して暮らせるよう、介護と医療面の両方から利用者を支えるサービスを提供しています。現在、横浜市、川崎市、鎌倉市内でグループホームを11ヶ所、クリニック2ヶ所を運営しています。ここ「グループホームふあいと永田」は同法人グループ内で一番新しく開所した事業所で、京浜急行線「弘明寺駅」からバスで「南永田入り口」停留所下車して、徒歩3分程の場所にあります。

●管理者は、利用者一人ひとりの尊厳や歴史を尊重したケアに注力し、利用者が「安心して過ごせる環境を提供」をモットーとしています。利用者が安心して過ごせる生活環境を提供するためにも、職員同士の「協調性・協力性・チームワーク」は必要不可欠であることから、利用者、職員同士に対する「目配り、気配り、思いやりの精神」を常に意識しながら支援を行い、全職員が利用者の変化を実感・体感しながら、残存能力の維持・向上に努め、生活の質の向上につなげるケアの提供を目指しています。

●開設当初から新型コロナウイルスの影響により、面会や外出、地域との交流など、様々なことに制限が生じて自粛せざる得ない状況下のなかで、利用者のお脚筋力低下や気分転換につなげられるよう職員間でアイディアを出し合いながら、好転させていきたいと考えています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームふあいと永田
ユニット名	だいち

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和2年6月オープンし施設独自の理念は、職員全員の意見を踏まえ設定したいと思っている為、現時点ではまだ、設定できておりませんが、会社が打ち出しているもので、ご利用者様の喜びと安心出来る環境の提供、尊厳、生活歴を守り、してもらいたい介護を念頭に生活の質の向上を日々模索しております。	法人で作成された事業所理念「ご入居者様の心に寄り添い共に笑い、共に喜び、人生の終の住まいとして、ここ永田の地に根ざしたホームを提供します」はパンフレットに記載され、入居時に家族にも伝えてあります。今後は、職員全員の意見を集約して、事業所独自の理念を作成したいと考えています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の回りは新しい住宅ばかりで自治会も出来ない場所にあり自治会の加入にも至っておりませんが、職員に近所の方もいる事で地域の情報などを聞いております。コロナウイルス感染拡大防止の為、活動や交流には参加できていない状態です。	事業周辺は新興住宅地が多く、自治会などないことから加入には至っていません。しかしながら近所に住んでいる職員もいるため、職員を通して地域情報の把握に努めています。現在は新型コロナウイルスの影響により、地域との交流は行えていませんが、終息し次第交流を行っていきたいと考えています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練や納涼祭など、地域の方を巻き込んだ取り組みをと思っておりますが、オープン以来、コロナウイルス感染拡大防止の為、直接の事業所の発信は行えていないが、パンフレットを建物も通り沿いに置き、誰でもいつでも見れるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議もコロナウイルス感染拡大防止の為、実際の開催は見送っており、書面の郵送にて現状報告をしております。	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催を基本とし、地域包括支援センター職員・家族に参加を呼びかけています。事業所の現状や活動報告を中心に参加者から忌憚のない意見をいただき、サービスに反映させるようにしています。但し、現在はコロナ禍のため、一堂に会しての開催は見送っており、書面にての報告に留まっています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染拡大防止の為、市町村担当者との関係性を築く取り組みは、介護保険更新の申請にお話をする位で行っておりませんが今後、関わりを持たせて頂きたいと思っております。	横浜市や南区の担当者とは必要に応じて介護保険更新の申請時に相談に乗っていただくことはありますが、担当者とは関係性を築くまでの情報交換などは行えていないので、今後は関係を持っていきたいと考えています。市区町村主催の研修や講習会は、コロナ禍のため、一堂に会するものは中止となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オープン以来、身体拘束は行っておりませんが、玄関はオートロックの構造になっており、安全面から施設の回りは車1台がやっと通れるよう道が狭く綺麗に整備はされていない事などを踏まえ外出時には職員やご家族様の同行をしております。身体拘束に関しては施設内では年に2回研修を行っております。	利用契約書および重要事項説明書にも身体拘束はやむを得ない場合を除き行わないと明記されており、ユニット会議で利用者の現状やケア方法について検討し、身体拘束や虐待に該当していないかについて話し合うこともあります。日頃から身体拘束・虐待について話し合うことで全職員の意識統一を図りながら身体拘束・虐待のないケアに取り組んでいます。また、法人で作成されたマニュアルや指針に沿って研修も実施しています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待防止関連法について勉強会をしております。日常からスピーチロックや不適切なケアについて話し合いを行って、ご利用者様の尊厳や人生の先輩として学ぶ姿勢を持つ事を徹底しております。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されているご利用者様がおられるので、後見人様、保佐人様との関わりや役割を理解して支援に繋げております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、特に利用料金についての説明を丁寧に行いご理解をいただいております。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来訪時や、お電話にて利用者様のご様子やお気持ちなどをお伝えし、ご家族様の意向も職員一同、確認させて頂いております。	契約書、重要事項説明書および運営規定にも苦情相談窓口や対応の流れについて明記されており、契約時に説明しています。基本的には来訪時や電話連絡した際に近況報告と合わせて意見・要望を伺っています。意見・要望は書面に時系列で記録し、職員にも周知して早期解決につなげるようにしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が直接現場職員に話を聞く機会はないが、管理者は月に1度のフロア会議や日々の業務の中で職員の意見を聞き、法人全体で行っている月に1度運営会議などにも意見や現状の報告をし反映させ職員の意欲の向上につなげている	管理者は職員の出退勤時、休憩時、各ユニットを巡回するなどしてコミュニケーションを図り、意見・提案を聞くようにしています。職員から挙げた意見や提案は、月1回のフロア会議で意見交換を行った後にケアや業務に反映させ、職員の意欲向上につなげています。さらに、法人全体で行っている月1回の運営会議の場でも意見や提案、現状を報告し、情報の共有を図っています。管理者は開所間もないことから、職員の声を集約しながら体制を作っていくと考えています。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年3回、人事考課を行い、給与や賞与や昇給などで評価を査定に繋げ、個別面談等や日々日常的に家庭の事情やストレス、業務の悩みを聞き休日希望や働き方を一緒に考え働きやすい職場を作る取り組みを行っております。代表者は社員にパースディケーキのプレゼントをし職員の意欲向上に繋げている			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社して1か月ほどはマンツーマンのOJTの体制をとってご利用様との関わりやケア方針について指導を行っています。その後は常に悩みや疑問などに答え経験を積んで頂いております。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で月に1回、運営会議を実施し管理者が情報の共有や交流を持てる機会を持ちサービスの質の向上につなげる取り組みをしています。コロナ過が回避されたら他法人のグループホームとの意見交換などが行えるように取り組みたいと思っております。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人様に、今の現状をアセスメントし、困っている事や、やりたい事など、希望を伺い、可能な限り主訴をケアプランにも反映させて頂いております			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご家族様にもお会いして、これまでの経緯や、ご希望や不安な事、心配されている事を伺う事に努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談には管理者と本部の営業職員2名で伺い、ご本人様の状態確認と、ご家族様意向を伺い今必要な支援を見極め適切な支援を検討しています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生活歴を知り、ひとりひとり自立支援を念頭に出来る事を継続して行かれるように支援し、家事活動など何かをして頂いた時は感謝を伝え、共に生活して行くを常に念頭にした関係づくりをしています。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルス感染拡大防止の為、直接の面会は控えて頂いておりますが、ご本人様のお困りごとに共に支えあえるように、お電話にて常に相談をさせて頂いております。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染拡大防止の為、馴染みの方とは面会という形は出来ておりませんが、入居時は不安な様子も皆様ありましたが、それぞれ電話やお手紙等で、ご友人との関係を継続して頂いております。	家族には差し支えない程度に友人や知人へ事業所に入居したことを伝えてくださいと声かけしています。現在はコロナ禍のため、面会は制限していますが、今後は電話やリモートによる面会などを検討しています。本人から要望があれば、手紙の送付や事業所から電話をかけるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人一人の特性を共有し、お席などに配慮を行い。また、お散歩やレクリエーションでお席が遠い方も交流がもてるよう職員が間を取り持つように支援させて頂いております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方に関しても、行く先に情報を提供したり、ご家族様にも必要時、アドバイスや、ご本人様の様子伺いなど、相談支援をさせて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	モニタリングやアセスメントを始め、日常においても、ご本人様の意向を伺い。意向を伝える事が困難な方には、その方の生活歴を把握し普段の生活パターンや好みなどから、したい事などを推測し、その方の思いを聞くように職員同士でも情報を共有して検討しております。	入居時のアセスメントで本人や家族、在宅時などのケアマネージャから趣味や嗜好、生活歴、既往歴、暮らし方の希望などを聞き取りながらアセスメントシートを作成し、職員間で情報共有を図っています。入居後は日々の関わりの中で会話や表情から思いや意向の把握に努めています。得られた情報は職員間で意見交換を行いながら、本人本位に検討して、介護計画に反映させながら意向に沿った支援につなげています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からこれまでの生活や暮らし方、以前利用されていたサービスなどを伺い把握に努めております。お伺いが難しい方には、以前のケアマネージャーに電話にてお話を伺ったりし、ホームに入居となった経緯などを把握できるようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常で、その方のしたい事、出来る事などを積極的にお声掛けし、自己選択して頂けるよう心がけ過ぎて頂くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意向と、ご家族様の意向を伺い、月1回、職員間でケアカンファレンスを行い、サービスが適切か、新たな問題などが発生していないか話し合った上で介護計画を作成し、定期的なモニタリングで確認を行い、アセスメントを実施した上で介護計画を作成しています。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成しています。入居後しばらくは様子を見ながら、入居面談時に得られた情報と差異が無いかなど、細かな情報を収集しています。月1回のケア会議でカンファレンスを行い、日々の記録や職員の気づきを話し合い、ケアの課題などを明確にして共通認識を図り、その方の自立に向けた介護計画を作成しています。3ヶ月または状態の変化に応じて都度モニタリングを行い、現在の身体状況に合わせた介護計画に沿って支援が行われているか見直しを行っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや、出来事などを記録や申し送りなどで職員間で情報を共有して工夫してケアを実践し介護計画の見直し等に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や、ご家族様の状況を踏まえ、ご家族様の協力が上げない場合であっても、柔軟に通院の援助や必要な物の購入など行える範囲内で取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルス感染拡大防止の為、地域資源の活用は行えておりません。今後は、消防訓練や地域の行事や施設の納涼祭など、地域を巻き込んだ活動をしていかれればと思っております。また、ボランティアなどの活用もしていきたいと考えております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自己選択により通院を継続されている方に対しても、何かあれば、かかりつけ医に電話での相談等は行っております。往診に関しては入居者全員が適切な医療が受けられるようにと思っております。	入居時に提携医療機関について説明したうえでかかりつけ医の有無を確認し、本人と家族の希望を尊重して主治医を決めていただくようにしています。法人の提携医から週1回の往診と看護師の巡回が週1回あり、利用者の適切な健康管理が行われています。主治医の往診、看護師の巡回時には職員も同席して日々の様子や気になる点を伝えることで、適切な医療連携が図れるようにしています。歯科医は必要な方のみ契約して、必要に応じて都度往診に来ていただいています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護職員による巡回訪問があり、その時に見て頂きたい事や相談をさせて頂いています。利用者様も看護職員とお話をする事で安心した生活をして頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時は必ず介護サマリーを送らせて頂いたり、付き添いをして出来る限りの情報交換をし、退院時は病院に出向きお話を伺うなどを行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合においては、ご家族様との話し合いをし、事業所で出来る事や出来ない事などを説明をしております。また、終末期に関しては、ご本人様の状態や意向、ご家族様の意向や協力、医師や看護の協力体制、職員の万全な体制を見極めて取り組む事と職員間で話し合っております。	契約時に重度化や終末期における指針、事業所で出来ること出来ないことについて説明し、同意書を取り交わしています。状態の変化に応じて家族との話し合いの場を設け、家族の意向を確認した後に、今後の方針を決めています。事業所で看取りを希望される場合は、近くの在宅医に切り替え24時間のオンコール体制の下、終末期に向けた支援を行っております。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応に関しては施設研修時に勉強をしておりますが、応急手当や実践に即した訓練はコロナ禍の為、行えておりません。今後はAEDの設置や救命処置などの実践が行えるよう検討していきたいと思っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルス感染拡大防止の為、消防署や地域を巻き込んだ消防訓練は行えておりませんが、自主訓練にて年2回の消防訓練は実施しております。1度は夜間帯想定にて行っております。災害に関しては、施設内研修で行っておりますが、備蓄の用意等はこれからとなっております。	年2回の火災想定による避難訓練では、うち1回は消防署に立ち合いを依頼して行う予定でしたが、今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、消防署の立ち合いや地域の方への声かけは控え、自主訓練という形で夜間想定を含めた訓練を実施しています。備蓄品については、必要なものを精査したうえで準備していくとしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりのプライバシーを守るように配慮した声掛けやタイミング、声掛けの場所等を考え適切な声掛けを行うように努めております。個人情報保護に関しては施設内研修にて職員間で研修を行っております。	入職時研修や入職後も定期的な研修を行うとともに、申し送りやユニット会議などで、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設けています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、言動や対応に十分留意しています。また、個人情報や守秘義務についても周知徹底しています。居室への入室、排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心に配慮して対応しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人様の希望や意向を常に伺い自己選択できるように声掛けをしております。希望や要望を伝える事が困難な方には、表情や簡単な言葉で選択してもらうなどの工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはありますが、一番は利用者様のペースに合わせ、どのように過ごしたいか選んで頂き、出来る限り希望に沿って支援をしております。例えば、散歩に行きたいと希望があれば、お誘いし、部屋で休みた時は部屋にお連れして、食事を遅く取りたい希望があれば、遅く提供したりしております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、訪問理美容を利用して頂いております。通院や行事の際などはお化粧品をして頂いたり、散歩に行く際も服装を整えて頂いたりして、日常でもおしゃれを楽しめるよう支援させて頂いております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は昼食と夕食は職員も同じものを食べ、「今日の〇〇は美味しかったね」など、お話をしています。また、片付けは食器拭きやお盆拭き、テーブル拭きなどのお手伝いをして頂いております。	食材はレシピ付きで業者から発注し、職員が調理していますが、利用者の残存能力に応じて下ごしらえなどの準備や片付けを手伝っていただき、残存能力の維持につなげています。食事は職員も同じメニューものを食べながら食事支援を行っています。コロナ禍で外食支援は行えていませんが、テイクアウトや出前を活用したり、時候の料理を楽しめるよう工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は入居前の状態をご家族様などに聞き取り好みなどを把握し適切な量が取れているかを個人記録に記入し、水分などが少ない方に関しては、好きな飲み物やゼリーなどを声掛けをし提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの実施に努めております。自身で出来る方はセッティングする事で行えています。自身で行えない方は出来ない部分だけ介助にて行っています。出来るところは出来る限り自身で行ってまいります。緊急宣言時以外は週1回、訪問歯科にて口腔衛生をして頂きアドバイスも頂いております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人記録を付けて排泄間隔を把握し個々のタイミングで声掛け誘導を行っております。タイミング良く誘導する事でオムツの使用を減らす努力をしております。夜間帯に関しては睡眠を優先させて頂いておりますが、希望時は誘導し介助させて頂いております。	排泄チェック表にて利用者一人ひとりの排泄状況の把握に努め、タイミングを見計らった声かけ、誘導を行うことによりトイレで排泄できるよう支援しています。オムツなどの排泄ケア用品の使用は極力控え、残存能力の維持につなげるよう心がけています。便秘予防につなげるためにも、毎日レクリエーションで体操を取り入れ、場合によっては主治医に相談して下剤などを使用することもあります。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操や歩行などの運動を促し、牛乳やオリブオイル、オリゴ糖や青汁などを取り入れ便秘を軽減できるように工夫をしております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	通院や気分が乗らない日などは曜日をずらしたりして入浴して頂いています。また、体調不良なども次の日などにしてなるべく入浴できるようにしています。入浴拒否がある時は医師から声掛けしてもらったり、人を替え声掛けを行い、入浴できるように工夫させて頂いております。	週2回以上の入浴を基本とし、安全かつ安心して入浴していただけるよう入浴前にはバイタルチェックと本人の希望を尊重しながら、入浴を促しています。入浴拒否のある方は職員を代えて声かけしたり、主治医の往診時に声かけしてもらおうなど工夫しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活パターンに合わせ適宜、休息して頂きながら日中は活動を主に夜間に眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロアに薬事情報をおき、変更があれば最新のものと変更し、職員全員が何の薬をいつ服用しているか周知徹底を図っています。服薬介助時は2人で確認作業をして読み上げや飲み込みまでの確認を徹底しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方には家事活動の洗濯物たみや食器拭きなどを日々お願いをしています。男性に関しては掃除などの家事活動をお願いし、して頂いております。皆さんで行うレクリエーションや個々の趣味に合わせて一人でやる、塗り絵や写経、裁縫などのレクリエーションも提案をさせて頂いております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染拡大防止の為、通院以外の遠い外出支援は行えておりませんが、車いすの方でも近所での散歩や施設の回りでの日光浴など気分転換が行えるように外出支援はさせて頂いております。	天気や気候、利用者の体調に配慮しながら事業所周辺を散歩にお連れしたり、日光浴をするなど、外気に触れる機会を設けるようにしています。現在はコロナ禍のため、人が集まる場所への外出は自粛していますが、コロナ禍が終息したら季節の外出行事や外食支援なども実施していきたいと考えています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウィルス感染拡大防止の為、買い物同行の支援は3度ほど行ったのみとなっておりますが、おこずかいを預らせて頂いているので、ご本人様の希望があれば、代行し購入をさせて頂いております。施設前の自動販売機などは一緒に行き気軽に購入を頼める環境作りに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込まれている方が数名いらっしゃり、お持ちでない方に関しても、希望された時に、ご家族様や後見人様に直接、ご本人様がお話を出来るように電話をかけさせて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は清潔を保てるように毎日の消毒や清掃を行い不快なく、衛生的に過ごして頂けるよう配慮しております。	共用空間は皆が集まって食事を摂ったり、過ごす場所でもあることから清潔感を保ち、適度な明るさで居心地よく過ごせる雰囲気心がけています。現在は感染症拡大防止のため、空気清浄機の設置に加えて定期的に窓を開けて換気したり、アルコール消毒も定時で実施しています。装飾については季節感を感じられる物やレクリエーションで作った作品を飾っています。利用者が安全・安心して過ごせるよう動線にも配慮した家具の配置が行われています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にソファを置き利用者様同士でくつろぎながら会話ができるようにしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自室には自宅にあった物を出来る限りお持ち頂いて安心できる空間作りをしております。また、食器などもお持ち頂き、なるべく使い慣れた物を使用させて頂いております。	全居室にはクローゼット、エアコンが備え付けとして完備されています。自宅の延長として生活していただくためにも、入居時には使い慣れた寝具、家具や調度品を持ち込んでいただくようにしています。人によって様々な思い出の品や使い慣れた家具などが持ち込まれ、個性を活かした居室作りがされています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症が軽度な方から重度な方までいらっしゃいますが、ちょっとした工夫や声掛けで、出来る事、わかる事を増やし自立した生活につなげるよう日々、職員間で話し合い援助の工夫をさせて頂いております。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームふあいと永田

作成日

令和3年5月10日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	コロナ禍という影響もあり、備蓄品の用意が進んでいない。	非常時でも安心できる施設を作る。	備蓄リストを作成する。 置き場所を決め配置する。 職員にも周知できるように研修等を行う。	6ヶ月
2	1	施設独自の理念がなく法人の理念を共有している。	施設独自の理念を作り、職員全員が同じ目標を共有できるようにする。	職員の思いや意見を聞く。 意見や思いを集約して施設独自の理念を作る。 職員に会議棟で発表し、事務所等に掲示しておく。	6ヶ月
3	20	コロナ禍という所でオープン以来、面会に制限が来ています。	リモートによる面会などで利用者様やご家族様、馴染みの方との関係を支援する。	リモートが行えるような環境を整備する。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホームふあいと永田
ユニット名	あおぞら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和2年6月オープンし施設独自の理念は、職員全員の意見を踏まえ設定したいと思っている為、現時点ではまだ、設定できておりませんが、会社が打ち出しているもので、ご利用者の喜びと安心出来る環境の提供、尊厳、生活歴を守り、してもらいたい介護を念頭に生活の質の向上を日々模索しております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の回りは新しい住宅ばかりで自治会も出ていない場所にあり自治会の加入にも至っておりませんが、職員に近所の方もいる事で地域の情報などを聞いております。コロナウィルス感染拡大防止の為、活動や交流には参加できていない状態です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練や納涼祭など、地域の方を巻き込んだ取り組みをと思っておりますが、オープン以来、コロナウィルス感染拡大防止の為、直接の事業所の発信は行えていないが、パンフレットを建物も通り沿いに置き、誰でもいつでも見れるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議もコロナウィルス感染拡大防止の為、実際の開催は見送っており、書面の郵送にて現状報告をしております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウィルス感染拡大防止の為、市町村担当者との関係性を築く取り組みは、介護保険更新の申請にお話をする位で行えておりませんが今後、関わりを持たせて頂きたいと思っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オープン以来、身体拘束は行っておりませんが、玄関はオートロックの構造になっており、安全面から施設の回りは車1台がやっと通れるよう道が狭く綺麗に整備はされていない事などを踏まえ外出時には職員やご家族様の同行をしております。身体拘束に関しては施設内では年に2回研修を行っております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待防止関連法について勉強会をしております。日常からスピーチロックや不適切なケアについて話し合いを行って、ご利用者様の尊厳や人生の先輩として学ぶ姿勢を持つ事を徹底しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されているご利用者様がおられるので、後見人様、保佐人様との関わりや役割を理解して支援に繋げております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、特に利用料金に関する説明を丁寧に行いご理解をいただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来訪時や、お電話にて利用者様のご様子やお気持ちなどをお伝えし、ご家族様の意向も職員一同、確認させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が直接現場職員に話を聞く機会はないが、管理者は月に1度のフロア会議や日々の業務の中で職員の意見を聞き、法人全体で行っている月に1度運営会議などにも意見や現状の報告をし反映させ職員の意欲の向上につなげている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年3回、人事考課を行い、給与や賞与や昇給などで評価を査定に繋げ、個別面談等や日々日常的に家庭の事情やストレス、業務の悩みを聞き休日希望や働き方を一緒に考え働きやすい職場を作る取り組みを行っております。代表者は社員にバースディケーキのプレゼントをし職員の意欲向上に繋げている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職して1か月ほどはマンツーマンのOJTの体制をとりご利用様との関わりやケア方針について指導を行っています。その後は常に悩みや疑問などに答え経験を積んで頂いております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で月に1回、運営会議を実施し管理者が情報の共有や交流を持てる機会を持ちサービスの質の向上につなげる取り組みをしています。コロナ過が回避されたら他法人のグループホームとの意見交換などが行えるように取り組みたいと思っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人様に、今の現状をアセスメントし、困っている事や、やりたい事など、希望を伺い、可能な限り主訴をケアプランにも反映させて頂いております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご家族様にもお会いして、これまでの経緯や、ご希望や不安な事、心配されている事を伺う事に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談には管理者と本部の営業職員2名で伺い、ご本人様の状態確認と、ご家族様意向を伺い今必要な支援を見極め適切な支援を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生活歴を知り、ひとりひとり自立支援を念頭に出来る事を継続して行かれるように支援し、家事活動など何かをして頂いた時は感謝を伝え、共に生活して行くを常に念頭にした関係づくりをしております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルス感染拡大防止の為、直接の面会は控えて頂いておりますが、ご本人様のお困りごとに共に支えあえるように、お電話にて常に相談をさせて頂いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染拡大防止の為、馴染の方とは面会という形は出来ておりませんが、入居時は不安な様子も皆様ありましたが、それぞれ電話やお手紙等で、ご友人との関係を継続して頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人一人の特性を共有し、お席などに配慮を行い。また、お散歩やレクリエーションでお席が遠い方とも交流がもてるよう職員が間を取り持つように支援させて頂いております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方に関しても、行く先に情報を提供したり、ご家族様にも必要時、アドバイスや、ご本人様の様子伺いなど、相談支援をさせて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	モニタリングやアセスメントを始め、日常においても、ご本人様の意向を伺い。意向を伝える事が困難な方には、その方の生活歴を把握し普段の生活パターンや好みなどから、したい事などを推測し、その方の思いを聞くように職員同士でも情報を共有して検討しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からこれまでの生活や暮らし方、以前利用されていたサービスなどを伺い把握に努めております。お伺いが難しい方には、以前のケアマネージャーに電話にてお話を伺ったりし、ホームに入居となった経緯などを把握できるようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常で、その方のしたい事、出来る事などを積極的にお声掛けし、自己選択して頂けるよう心がけ過ぎて頂くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意向と、ご家族様の意向を伺い、月1回、職員間でケアカンファレンスを行い、サービスが適切か、新たな問題などが発生していないか話し合った上で介護計画を作成し、定期的なモニタリングで確認を行い、アセスメントを実施した上で介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや、出来事などを記録や申し送りなどで職員間で情報を共有して工夫してケアを実践し介護計画の見直し等に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や、ご家族様の状況を踏まえ、ご家族様の協力が仰げない場合であっても、柔軟に通院の援助や必要な物の購入など行える範囲内で取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染拡大防止の為、地域資源の活用は行えておりません。今後は、消防訓練や地域の行事や施設の納涼祭など、地域を巻き込んだ活動をしていかれればと思っております。また、ボランティアなどの活用もしていきたいと考えております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自己選択により通院を継続されている方に対しても、何かあれば、かかりつけ医に電話での相談等は行っております。往診に関しては入居者全員が適切な医療を受けられるようにと思っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護職員による巡回訪問があり、その時に見て頂きたい事や相談をさせて頂いています。利用者様も看護職員とお話をする事で安心した生活をして頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時は必ず介護サマリーを送らせて頂いたり、付き添いをして出来る限りの情報交換をし、退院時は病院に出向きお話を伺うなどを行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合においては、ご家族様との話し合いをし、事業所で出来る事や出来ない事などを説明をしております。また、終末期に関しては、ご本人様の状態や意向、ご家族様の意向や協力、医師や看護の協力体制、職員の万全な体制を見極めて取り組む事と職員間で話し合っております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応に関しては施設研修時に勉強する事はしておりますが、応急手当や実践に即した訓練は行っておりません。今後はAEDの設置や救命処置などの実践が行えるよう検討していきたいと思っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルス感染拡大防止の為、消防署や地域を巻き込んだ消防訓練は行えておりませんが、自主訓練にて年2回の消防訓練は実施しております。1度は夜間帯想定にて行っております。災害に関しては、施設内研修で行っておりますが、備蓄の用意等はこれからとなっております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりのプライバシーを守るように配慮した声掛けやタイミング、声掛けの場所等を考え適切な声掛けを行うように努めております。個人情報保護に関しては施設内研修にて職員間で研修を行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人様の希望や意向を常に伺い自己選択できるように声掛けをしております。希望や要望を伝える事が困難な方には、表情や簡単な言葉で選択してもらうなどの工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはありますが、一番は利用者様のペースに合わせ、どのように過ごしたいか選んで頂き、出来る限り希望に沿って支援をしております。例えば、散歩に行きたいと希望があれば、お誘いし、部屋で休みた時は部屋にお連れして、食事を遅く取りたい希望があれば、遅く提供したりしております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、訪問理美容を利用して頂いております。通院や行事の際などはお化粧品をして頂いたり、散歩に行く際も服装を整えて頂いたりして、日常でもおしゃれを楽しめるよう支援させて頂いております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は昼食と夕食は職員も同じものを食べ、「今日の○○は美味しかったね」など、お話をしています。また、片付けは食器拭きやお盆拭き、テーブル拭きなどのお手伝いをして頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は入居前の状態をご家族様などに聞き取り好みなどを把握し適切な量が取れているかを個人記録に記入し、水分などが少ない方に関しては、好きな飲み物やゼリーなどを声掛けをし提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの実施に努めております。自身で出来る方はセッティングする事で行えています。自身で行えない方は出来ない部分だけ介助にて行っています。出来るところは出来る限り自身で行ってもらっております。緊急宣言時以外は週1回、訪問歯科にて口腔衛生をして頂きアドバイスも頂いております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人記録を付けて排泄間隔を把握し個々のタイミングで声掛け誘導を行っております。タイミング良く誘導する事でオムツの使用を減らす努力をしております。夜間帯に関しては睡眠を優先させて頂いておりますが、希望時は誘導し介助させて頂いております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操や歩行などの運動を促し、牛乳やオリブオイル、オリゴ糖や青汁などを取り入れ便秘を軽減できるように工夫をしております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	通院や気分が乗らない日などは曜日をずらしたりして入浴して頂いています。また、体調不良なども次の日などにしてなるべく入浴できるようにしています。入浴拒否がある時は医師から声掛けしてもらったり、人を替え声掛けを行い、入浴できるように工夫させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活パターンに合わせ適宜、休息して頂きながら日中は活動を主に夜間に眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロアに薬情報をおき、変更があれば最新のものに変更し、職員全員が何の薬をいつ服用しているか周知徹底を図っています。服薬介助時は2人で確認作業をして読み上げや飲み込みまでの確認を徹底しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方には家事活動の洗濯物たたみや食器拭きなどを日々お願いをしています。男性に関しては掃除などの家事活動をお願いし、して頂いております。皆さんで行うレクリエーションや個々の趣味に合わせ一人で行う、塗り絵や写経、裁縫などのレクリエーションも提案をさせて頂いております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染拡大防止の為、通院以外の遠い外出支援は行えておりませんが、車いすの方でも近所での散歩や施設の回りでの日光浴など気分転換が行えるように外出支援はさせて頂いております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染拡大防止の為、買い物同行の支援は3度ほど行ったのみとなっておりますが、おこずかいを預らせて頂いているので、ご本人様の希望があれば、代行し購入をさせて頂いております。施設前の自動販売機などは一緒に行き気軽に購入を頼める環境作りに努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込まれている方が数名いらっしゃり、お持ちでない方に関しても、希望された時に、ご家族様や後見人様に直接、ご本人様がお話を出来るように電話をかけさせて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は清潔を保てるように毎日の消毒や清掃を行い不快なく、衛生的に過ごして頂けるよう配慮しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にソファを置き利用者様同士でくつろぎながら会話ができるようにしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自室には自宅にあった物を出来る限りお持ち頂いて安心できる空間作りをしております。また、食器などもお持ち頂き、なるべく使い慣れた物を使用させて頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症が軽度な方から重度な方までいらっしゃいますが、ちょっとした工夫や声掛けで、出来る事、わかる事を増やし自立した生活につなげるよう日々、職員間で話し合い援助の工夫をさせて頂いております。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームふあいと永田

作成日

令和3年5月10日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	コロナ禍という影響もあり、備蓄品の用意が進んでいない。	非常時でも安心できる施設を作る。	備蓄リストを作成する。 置き場所を決め配置する。 職員にも周知できるように研修等を行う。	6ヶ月
2	1	施設独自の理念がなく法人の理念を共有している。	施設独自の理念を作り、職員全員が同じ目標を共有できるようにする。	職員の思いや意見を聞く。 意見や思いを集約して施設独自の理念を作る。 職員に会議棟で発表し、事務所等に掲示しておく。	6ヶ月
3	20	コロナ禍という所でオープン以来、面会に制限が来ています。	リモートによる面会などで利用者様やご家族様、馴染みの方との関係を支援する。	リモートが行えるような環境を整備する。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。